

第51回みんなで保育・子育てを考える オンライン プレのつどい

『保育・子育て こんなときどうする?』

清水玲子

2021.5.16

大阪のみなさんにお会いするのは2年ぶりでしょうか。

ほんとうに毎日、お疲れさま！この1年、新型コロナ感染の真ただ中で、ほんとうにわたしたちみんな、よくがんばってきましたよね。

そして、みなさんはそのなかでもこのつどいをよく開かれましたね。大阪の方たちのパワーとねばりに敬意を表します。

今日、このつどいが、少しでもみなさんの元気の源になってくれればいいなと思います。

1) 私たちの子どもへの願いは？

○みなさんは子どもたちをどんな人に育てたいですか？

生まれるときは・・・とにかく元気で生きていることに感謝！

でも、おっぱいちゃんと飲んでほしい、夜泣きしないでほしい、早く歩いてほしい、言葉がでてほしい、早くオムツがとれてほしい、他の子を叩いたり噛んだりしないでほしい、自分のことは自分でやる子に、思いやりのある子に、元気で友だちとも仲良く、勉強が出来る子に、いじめっ子にもいじめられない子にもならないでほしい、才能があるなら花開いてほしい、できればお金の苦勞をしないで、仕事にも家族にも恵まれて幸せになってほしい・・・
際限なく子どもへの願いは膨らむ

○どんな子どもに育てたいか、という問いは、突き詰めて考えると、私たちがほんとうにはどんな人間でありたいかという問いなのではないか

→ では、私たちはどんな人間でありたいか・・・人それぞれですね、当然。

私は？→ 自分に正直に生きる。(結構難しい。まわりの人の思惑など気にしたり、よく思われたかったり・・・)それが社会のなかで誰の尊厳も傷つけない生き方であってほしい。異なっても、すべての人の人権を自然に大切にできる人になりたい。うまくいかないことがあってもまわりの人たちと知恵や力を出し合って、お互いに助け合って生きていけたらいいなあ。

簡単ではないし、こんな人にはなりたくない、と思うことはあるのに自分のなかにそういう弱さを見つけてしまった時には落ち込む・・・でもまわりの助けも借りて、そういう自分を放り出さずに生きていけたらいい。

*主体性とは「自分がよいと判断したことをする」こと

(岩川直樹「生きる主体性」ちいさいなかま 2018年8月号より)

2) 子どもに対しては？

○「どうありたいか」「どんな人間になりたいか」は本人が決めること

・身近にいる人たちに安心して自分を出し、自分でいっしょうけんめい考えて選択をする
⇒ その選択が否定されないことで、どんな自分も認められていることを実感する
⇒ やってみてうまくいかなかったら、またいっしょうけんめい考えて選び直す
* うまくいなくても「ほら、みなさい」なんて言われない
☆自分の選択、判断がよかったと思ったり、違うと思ったりを繰り返しながら、自分の選択、判断を磨いていく。そして、私たちを越えていく。

☆子どもの人生は子ども自身が選び、作っていくもので、私たちが決めるものではありませんよね。だって、我が子であっても、別の人間ですから。(これをそうだ、と素直に思えるのは意外とたいへん) 子どもたちにも、ありのままの自分を受けとめて、自分の人生を選んでいけるようになってほしいと願っています。

○それでは子どもに丸投げしてしまっていていいの?・・・いいえ

やはり、他の人を踏み台にしたりしないで自分もほかの人も大切にできる生き方を選べる人になってほしい・・・それってけっきょくおとなたちがそうしていないと伝えられない

・子どもたちが安心して自分の思いに正直になり、ほんとうによいと思うことを選んでいけるようになるのを支えるかかわりを。

◎私たちのすべきことは、そこにいるおとなたちと子どもたちで、自分で考え、判断し、行動する暮らしをつくること。

3) 子どもたちの主体性を育てるかかわりって?

○子どもが安心できるようなかかわりを

・子どもはいつでも自分をわかってほしい、認めてほしい、愛してほしい、信じてほしいと思っている

→子どもは自分がわかってもらえた、認めてもらえた、信じてもらえている、愛されている、と心から思えたときに、ほんとうに安心して身も心も大人や友だちに委ね、自分の気持ち、自分の要求を率直に出せるようになる

その信頼関係のなかで、ほんとうの気持ちを出し合い、安心してけんかもし、仲直りもするなかで、つながった心地よさを味わい、どんどん新しいことを吸収し、おもしろいことに夢中になり、さまざまな自分を成長させていく

⇒だから おとなはいつでも子どもの思いをわかろうとしてかかわることが大切

○子どもの思い、子どもが見ている世界を理解する

・発達からの理解

たとえば2歳!

①自分で初めて選べるようになったので、いつでも選びたい。それを否定されると自分が否定された感いっぱい抗議する。②最大の自己と最小の他者・・・公平・平等という世界とは違う見え方

たとえば3歳ごろと4歳ごろでどう見え方は変わるのか

①3歳では2つのことを同時に言われても困るが4歳では2つのことを同時にできていく・・・連続ひとり縄跳び、②自分のなかで2つの矛盾する気持ちが生じて葛藤する③おとなを介さない友だち関係づくり・・・力の強い人がおとなしい人を従わせようとしたり、仲間を作るとき、仲間はずれも。子どもの世界もなかなかたいへんに。

たとえば9歳から10歳ごろから大きく変わる子どもの世界

①物事を抽象的、論理的にみるように・・・人生とは？自分ってどんな人間？うちの親ってどんな人間？②集団的自己の誕生・・・仲間意識は強くなり、おとなとは離れての仲間と過ごすことも。それまでの子どもたちの育ちのなかで安心できていなかったりすると、誰かを排除することで自分が受け入れられる、といった構図も生まれてしまう

→ そうならないためには、生まれて初めの10年のあいだに、自分が大切にされてきた、愛されてきた、認められてきたという実感が持てることが大切

・いけないとわかっていてもやってしまうとき

わかっていてもやってしまうことがあるのが人間。そのときの気持ち、なぜやってしまうのかをわからないと、どうかかわったらよいのかもわからない

「どうしてそんなことしたの？」と聞いてもたいていは答えてくれない。問い詰められているように感じると心が開けない。ほんとうに教えてもらいたいという気持ちで声をかける。そのとき何も言ってくれなくても、大丈夫。そのとき「決着」をつけようと焦らないようにしよう。

4) 実際の保育・子育てで考える

○子どもの気持ちをわかるって？

ex. 毎朝、ゴミ箱を蹴っ飛ばす2歳児の気持ち

ex. プールカード記入漏れで入れなくて拗ねてしまった子どもに友だちの言ったひとこと

ex. 友だちのものを隠して、知らないとうそをつく

・・・「ちいさいなかま」2020年7月号『子どもがウソをついたときあなたは どうする？ どう考える？清水玲子』をぜひぜひ読んでくださいな

○子どもが自分で選ぶことを保障する・・・できるだけ選べる経験を！

・子どもの一日のなかで子どもが選べるのはどんなこと？

選べないことはすごく多いということに気付きたい・・・保育園に行く？行かない？

保育園であそびが選べるのはどんな時間？食べるものを選べる？

○それではルールをわかってもらわなくてもいいの？

暮らしに必要なことは、おとなが子どもといっしょに暮らしていく中でだんだんわかっていく・・・暮らすうえでの必然性が理解できていくと、すぐには受け入れられなくても次には納得したりする ex. 家に入るときは靴を脱ぐ ex. 熱いスープはふーふーと冷ましてから飲む ex. かたづけ ex. 今ご飯作ってるからあとで読んであげる

*ルールって一度決めると、なぜそう決めたのか、ではなく、きまりだから守るか守らないか、というまなざしにみんながなってしまう、お互いを縛って誰のためにもならないときもあるので、つねに吟味が必要。

○子ども同士はかかわりたい・・・それをどう大切に育てていくか

・お互いを認め合える喜びをどの子ども味わえるようにしたい

・・・いっしょがうれしい、ぶつかったりなかよくなったりしながら友だちを知っていく、対等なケンカができる、仲間として力をあわせる

*** 保育園は、子ども同士のかかわりを保障できる貴重なところ！そして大人同士も！**

5) 質問のうちからいくつかに答えて(ちゃんと答えになってないかも・・・すみません)

①年子なのでたいへん。要領よく、言うことを聞いてくれるようにするにはどうしたら？

答；ほんとうに毎日お疲れさまです！！年齢によってかわるでしょうが、とくに子どもがいうことをきくようになることはないと思います。この先を考えると、2人を比べたり、片方をほめてもう片方の子どもにやらせようとしたり、といったことをしないで公平に、そしてそれぞれの子に大好きだよ、と伝えれば、それで十分かと。親がいらいらするのも当たり前、しかり飛ばしてしまうこともあって当たり前。やりすぎたと反省したときは子どもに素直にあやまればいい。どうぞおいしいものを食べて元気でいてくださいな。

②5歳の子の言葉づかいが荒く、注意してもやめない。

答；こんなにちいさいのになんでこんなことばをいうの?!とショックですよね。おっしゃるとおり、ほんとうの意味はわかっていないので、ほんとうにそんな言葉を言いたいのかどうかも自分でわかっていないでしょう。ただ、そうしたことばで表わしているその子の思いはどこにあるのかをわかろうとすることが必要です。気持ちをわかってもらえていくと表現もかわってくるかもしれません。うまくいなくてくやしいのなら、その気持ちに共感したりすることがよいかと。言葉を注意してしまうと、気持ちをわかる方向にお互いに向かなくなる。普段、おとなたちがすごい悪態ついていたりもする世の中です。そのざらざらした空気こそスカッとさせたいものですね。

③保護者会の約束事の明文化をどう考えたらよいの？

答；今、保護者会自体が成り立たない保育園も出てきているという話も聞きます。ルールのところでも書きましたが、明文化すると、それを標準として、とても役員をやれそうもない事情がある家庭が負い目を感じてしまったり、孤立感を感じたりするリスクがあるように

思います。園といっしょに保護者も子育てをしていくうえで、どの家庭でも可能な役割分担の方法があれば、それを最低限のベースにして、うまくいかないことがでてきたら、あり方をみんなで考える機会と思って話しあい、相談することそのものが、園と保護者がどう手をつないでいくかの大切なことではないかと思います。たとえば、いま、コロナで難しいですが、いくつかの行事などのどれかの実行委員会にはすべての家庭がはいる、とだけ決めておいて、それぞれがクラスだけでなくすこしずつ知り合いになっていく機会をそこを通して増やしていく、といったことを実践している園もあります。

④保育園の先生と保護者の方たちとのつながりはなぜ大切か？

答；1番は毎日そこに通う子どもたちの大きな安心と成長は、おとなたちが心を開いて笑っていられることに大きく影響されているからです。信頼や親しみのない人たちのところに通う子どもたちのストレスは心配です。

2番は、つながることで子どもの思いを共有することがより可能になるからです。

3番は、子どもや子育てを通して、おたがいの人生観などを振り返る貴重な仲間だからです。

そして、その中で育つ子どもが学校に進んだとき、保育園で培ったおとなたちの輪が、地域での子育ての見守り力となり、子どもも親も苦しい時の支えになるからでもあります。

乳児期から何年もかけたら、安心して本音で子どものことや家庭のことなどを話しあえる仲間になっていける道は少しずつ出来ていくと思います。大人同士の輪を作るって他の場ではほんとうに難しい世の中です。一筋縄ではいかないけれど、そこに挑むことで自分も変わるかもしれません。ゆっくりでよいので・・・。

6) 今、新型コロナの真ただ中で

新型コロナはさらにたいへんになるかもしれません。なにが正しいのか、初めてのことで誰も正解がわかりません。

園のやるべきことも、迷いの連続かと思います。わからないとき、不安なとき、人は分かり合えないと感じてばらばらになりやすい。そうなったら子どもたちはどんなに不安になるでしょう。

わからないこと、不安なことは園と保護者とで意見を出し合って、合意できたことから踏み出しましょう。また、たとえば感染がでしてしまうなど、ほんとうに困難があっても、正確に、すべてをオープンにして精いっぱい考え、話しあい、行動を決めていくことが大切だと思います。そうすればどんなにたいへんになっても、またみんなで考えあって乗り切っていけると思うのです。

みなさんの健康をお祈りしています。おいしいものを食べて、元気でいてください。またお会いできるときを楽しみにしています！